

第1回FD研究会  
入学前教育

2009年6月3日(水) 文責 藤松素子

入学前教育について、これまでの経緯を確認した上で現状の課題、今後の方向性について意見交流を行った。

<報告>

入学前教育導入の経緯とその後の実施状況について

本学においては2003年度より導入。当初は入学までのモチベーションの維持、入学後の学科専門教育への導入、大学生としての基礎学力修得と自己把握を目的としたものとして設定されていたが、2007年度以降、これに加えて学習への不安緩和という目的も加わっている。

対象とする入試種別として、2003年度当初は特別推薦・宗門後継者・帰国生徒が、2004年度にはこれに公募制推薦が、2005年度よりAO選抜が、2006年度より同窓が加えられている。

実施時期は各入試の入学手続き終了日以降随時開始し、受講は任意である。具体的な実施内容は以下の通り。

2003年度

- ①東進ハイスクール作成の大学教養基礎講座ビデオ視聴後に試験実施。
- ②学科別に課題レポートの作成後に添削指導を実施。
- ③特別推薦は上記に加え独自の事前指導を実施。
- ④宗門後継は独自課題を実施。

2004年度・2005年度

- ①学科別に課題レポートの作成後に添削指導を実施。
- ②特別推薦は上記に加え独自の事前指導を実施。
- ③宗門後継は独自課題を実施。

2006年度・2007年度

- ①学科別に課題レポートの作成後に添削指導を実施。
- ②AO選抜の英米のみネイティブスピーカーとの電話コミュニケーションを実施。
- ③特別推薦は上記に加え独自の事前指導を実施。
- ④宗門後継は独自課題を実施。

2008年度・2009年度

※①②のいずれか、あるいは両方を選択。

- ①レポート作成コース…学科別の課題を提示。

1-2 AO選抜の英米のみネイティブスピーカーとの電話コミュニケーションを実施。

1-3 特別推薦は上記に加え独自の事前宗門後継は独自課題を実施。

1-4 宗門後継は独自課題を実施。

②授業体験コース…本学における自校教育、各学部の学びのガイダンス、体験授業を実施。

### <意見交流>

- ・春学期オリエンテーション期間に実施している基礎学力調査を入学前に実施して入学前教育として位置づけるのも一案である。
- ・縁 GP で実施している SNS を活用して、入学前の不安や疑問について、ネット上で相談できるような方法を検討してはどうか。
- ・現在実施している「授業体験コース」において、在籍学生との交流をすることを検討してはどうか。2コマ実施している体験授業のうち1コマ分を学生と受講生との交流の場にするのも一案である。
- ・受講生の対象を限定せず、可能な限り全員に受講してもらい、入学後の入門ゼミの授業と関連づけられるような内容で入学前教育の課題を考えることを検討してはどうか。
- ・レポート作成コースの内容について、リメディアル教育として位置づけることも可能であるし、学科の専門教育への導入として位置づけることも考えられる。いずれにするかについては、学科の判断も様々であろうから、一律に考えるのではなく学科別で対応できるようにすべきなのではないか。リメディアル教育として位置づけるのであれば、初年度に実施していたように教育産業に委託することも効果的ではないか。
- ・他大学に「逃げる」のを防ぐためにも、入学後の就学意欲を維持するためにも、可能な限りきめ細かな対応を行うことで学生の心をつなぎとめるべきである。
- ・やる気のある受講生・ない受講生が存在する。双方に対応できるように様々な選択が可能となるよう内容を検討すべきではないか。
- ・レポート作成コースではリメディアル教育として、授業体験コースは学部学科の専門教育の導入として位置づけることが望ましいのではないか。
- ・レポート作成コースは学部主導で、縁 GP の展開とも関連づけながら実施することを学部に検討してもらえるように提案してはいかがか。
- ・レポート作成課題については、各学部学科の教育目標と照らし合わせながら、その実施目的を明示して実施する必要がある。

### <2010年度実施に際して>

- ・縁 GP との関連はハード面での課題を解消できず具体的な検討はできなかった。
- ・レポート作成コースに関しては従来どおりの実施となったが、授業体験コースについては在籍学生との交流を実施した学部もみられた。